

答 申 書

令和8年3月17日

丸亀市長 松永 恭二 様

丸亀市総合計画審議会
会 長 齊 藤 栄 嗣

第三次丸亀市総合計画（案）について（答申）

令和7年6月20日付け7市政第1114号により諮問のありました第三次丸亀市総合計画（案）について、これからの8年間のまちづくりの指針を定めるものとの認識に立ち、当審議会において慎重に審議した結果、概ね妥当であると認め、ここにその旨を答申します。

なお、審議過程において意見のあった下記の事項に十分留意のうえ、将来像「丸亀は、ひとをイキイキさせるまち」の実現に向け、取り組まれるよう要望します。

記

○ 市民一人ひとりが主役となり、ともに未来を描く「みんなの計画」へ

本計画の推進にあたっては、市民とともに計画を進めていく姿勢を大切にし、市民一人ひとりが主体的に関われるよう、計画の趣旨や目指す未来の姿を分かりやすく伝えていくことが重要である。市民の共感を得て「自分ごと」として捉えられるよう周知啓発に努められたい。

○ 短期・長期の視点に立った施策の展開

人口減少や少子高齢化、ライフスタイルの多様化、地域のつながりの希薄化など、社会が大きな転換期を迎える中、本計画に基づく取組を着実に実行するとともに、その先の将来を見据えた持続可能なまちづくりを進めていくことが求められる。特に若者の定着・回帰の促進については、幼少期から地域や産業に関わりを持つ機会を重ねるとともに、仕事や娯楽といった若者が充実した生活ができる環境の整備を進められたい。

○ 市民参加・参画を促す具体性の確保

市民がまちづくりに関わる主体となるためには、「市民ができる協力・参画のかたち」を基本とし、ボランティアや地域活動などへの参加の機会を広げていくことが望まれる。世代やライフスタイルに応じて、市民が無理なく関われる環境づくりや機運の醸成に努められたい。

○ 重要業績評価指標（K P I）と進行管理の実効性向上

計画の実効性を高めるため、総合計画にとどまらず、個別計画を含むK P Iについては、取組量を示すアウトプット中心の考え方から、市民満足度や行動変容といったアウトカムを重視した方針へと転換されたい。併せて、継続的な検証とカイゼンにより、「成長する計画」として運用していただきたい。

○ 分野横断的な視点による施策の推進

行政課題が複雑化・多様化する中においては、誰一人取り残さないという視点を大切にしながら、分野ごとの枠にとらわれることなく、人の暮らしや地域課題を軸とした分野横断的な視点で取り組むことが求められる。特に公共交通や防災、福祉、まちなか再生など、複数分野に関わる施策については、関係部局が連携しながら一体的に推進されたい。

○ 丸亀ならではの魅力を生かした取組の継続

歴史や文化、地域資源など丸亀ならではの魅力を大切に、市民が自らのまちに誇りと愛着を持てるような取組を継続的に進めていくことが求められる。これらの取組を通じて、市民がまちの魅力を感じ、次の世代へとつないでいく意識が広がるよう努められたい。

丸亀市総合計画審議会

会 長	齊藤 栄嗣	副会長	高濱 和則
委 員	相原 しのぶ	委 員	岩崎 正朔
〃	逢坂 十美	〃	大西 裕子
〃	岡田 心羽	〃	白川 真由
〃	高木 和代	〃	高橋 勝子
〃	福田 康知	〃	美濃 しおり
〃	宮武 凌司	〃	宮川 諒信
〃	吉澤 康代	〃	和家 幸宏